



たが
「箍が・・・・」

今、毎日のように報道されているのが「兵庫県尼崎市で起きたJR福知山線の脱線事故」のニュースです。7両編成の快速列車は前4両が脱線し1両目は線路側のマンションに吸い込まれるように激突、2両目はマンションを囲む壁のようにL字型に折れ曲がりました。

乗客の大半が死傷するという未曾有の大惨事です。4月25日月曜日の朝、私もテレビを見ていて、傾きグシャクシャになった列車から白煙が上がるのを見て、これは大変なことになったと感じました。事故直後から今に至るまで（2週間たった今まで）各メディアのトップニュースはこの「脱線事故」のニュースです。事故の原因からはじまり、企業の姿勢・被害者の怒り・マスコミへの不信感・心理的要因・今後の対策等、様々な角度から報道が行われています。

そんな中で事故当初、今回の脱線事故で亡くなられた親族の方が言われた言葉が強く心に残りました。（息子さんをなくされたお父様だったと思います）『私を含めて、日本人は箍がはずれている』。企業の対応がどうだとか誰が悪いとかではなく「箍がはずれている」と言われたのです。『私を含めて』というその男性の言葉に、重い気持ちになりました。今回の事故は「他人事」ではない、それぞれが一人一人の戒めとして考えないといけないことなんだと言われ

ているようにも感じました。もし自分があの男性の立場だったなら、身近な人が亡くなってしまっていたら、きっと事故を起こした会社を責め、泣き叫んでいたことだと思います。あの男性のような言葉はきっとでなかったでしょう。

そこで「箍」という言葉の意味も考えてみました。ことわざの中に「箍がゆるむ」というのがありますが、箍とは、桶の胴部を外から締め付ける竹や鉄の輪のことで、木が乾燥して縮むと、箍が外れてしまい、使い物にならなくなってしまうことから、老朽して鈍くなることや張りつめていた緊張の糸が緩むことをさすそうです。緩んでいるだけならその緩みを緊張させ元にもどすことも可能でしょうが、一度外れた箍では言葉の通り使い物にはなりません。はずれてはいけない「箍」がはずれているのだとしたら・・・・・。

「隣には誰が住んでいるかさえわからない。地域の行事なんて大迷惑、めんどくさくって出る気がしない。自分の仕事(利益)さえできていれば他はおかまいなし。子供のことよりも自分の楽しみが優先の親達。ゲーム感覚でなんでもリセットできている子供達。テレビ画面の前でニコニコしながら「私はニートです」と答える若者。残虐な事件をはじめ大事故や災害が毎日起こる度に「あーまたか」と深く考えず

つもちゃんの

ドド
バタ
ラジオ日記

つつい流してしまっている自分自身。」
はずしてはいけない「籬」をいくつもの
も簡単に自らとりはずしてるような気がし
ます。

「道徳」だとか「常識」だとか「伝統」
だとか「しきたり」だとか私達のまわりには
いくつもの「籬」があったはずです。必

要な存在だったからこそ引き継がれてきた
ものをどんどん忘れさっているのかもしれ
ません。「籬がはずれた日本」今回の事故
の要因の一つに「籬」が上げられるとした
ら、私達は今後も多くの命を一瞬のうちに
失っていくのかもしれない。

お す す め 取材日記

「手作りの味もりもり」

ボリューム満点の森さんご夫婦が営んでいる食堂。

とにかくどの定食もすごいボリューム。

ご主人が打つうどんもついています。(このこだわりもすごい！)

さらにデザートももりだくさん。まさに「もりもり」です！

「夫婦でやっているからできるのよ」と奥様のコメントにほろり！

<住所> 満濃町大字羽間2245-1

<電話> 0877-73-3350

<営業> 10時~18時 木曜日お休み



牛牛定食 800円



デザートにも心があります